

平成29年3月13日

## 「大阪、京都、びわ湖を結ぶ京阪電車」のブランドイメージを統一 大津線車両のカラーデザインを変更します

京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪市中央区、社長：加藤好文）では、平成29年度から、大津線（京津線、石山坂本線）全車両のカラーデザインを順次変更します。

カラーデザインには、京阪線一般車両と同様のものを採用。成長・発展・若々しさといった京阪電車の企業カラーを象徴する伝統色「緑色」に白色を織り交ぜることで、現代的感覚をプラスしたカラーデザインです。現在大津線には、若草色（ライト・グリーン）と青緑色（ダーク・グリーン）のツートンカラーの600形、700形と、びわ湖の水面をイメージしたパステルブルーと日本の伝統色である灰白、刈安（イエロー）の3色を用いた800系がありますが、今回の変更により、京阪線と大津線の車両イメージが統一されることになります。

これと同時に、新たに京津線、石山坂本線の路線識別マークを設定。行先表示器と並べて表示することで、両路線を識別しやすくし、お客さまの利便性を高めます。

京阪グループでは、中期経営計画「創生果敢」（平成27～29年度）の主軸戦略の一つとして「観光創造」を掲げており、びわ湖～京都・岡崎エリアの観光活性化や比叡山を含むびわ湖淀川水系を「水の路」として観光ルート化し“人の流れ”の創出に取り組んでいます。今回の大津線車両のカラーデザイン変更や平成30年3月に予定している大津線4駅の駅名変更などにより、「大阪、京都、びわ湖を結ぶ京阪電車」としてのイメージを訴求し、観光客のさらなる誘致を図ってまいります。

詳細は別紙のとおりです。



カラーデザイン変更後の大津線車両イメージ  
（左から600形、700形、800系）

(別紙)

## 1. 車両デザイン概要

### ・京津線

①該当車両：800系

②車両数：32両

③配色：上部：濃緑色（レスト・グリーン）  
帯線：黄緑色（フレッシュ・グリーン）  
下部：白色（アトモス・ホワイト）

④コンセプト：緑色は、緑あふれる沿線風景に重なるとともに、成長・発展・若々しさといった京阪の企業カラーを象徴しています。京阪の伝統色であるグリーンに白色を織り交ぜることで、現代的感覚をプラスするカラーデザインです。



▲現在の800系



800系（新塗色イメージ）

### ・石山坂本線

①該当車両：600形、700形

②車両数：600形 20両、700形 10両

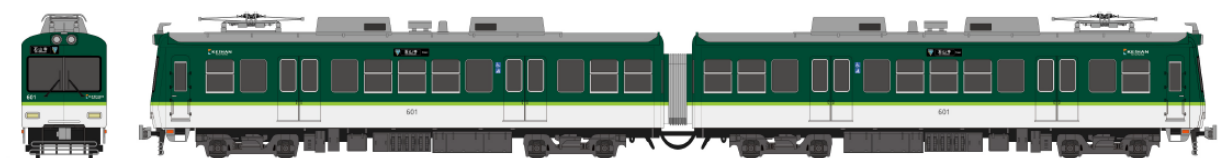
③配色、④コンセプトは、京津線と同様



▲現在の600形



▲現在の700形



600形（新塗色イメージ）



700形（新塗色イメージ）

## 2. 路線識別マーク概要

800系（京津線）と600形、700形（石山坂本線）が同じ配色となるため、本年6月より路線識別マークを設定し、両路線を識別しやすくします。

### ・京津線

コンセプト：山を越えて東西へ

山を越えて東西に走る路線を抽象化したデザイン。  
山をイメージした三角形の下の破線は、  
京津線を走る4両編成の車両を抽象化し、  
色は、自然豊かな沿線の緑を感じる色としました。



### ・石山坂本線

コンセプト：湖のほとりを南北へ

湖のほとりを南北に走る路線を抽象化したデザイン。  
びわ湖をイメージした三角形の左の破線は、  
石山坂本線を走る2両編成の車両を抽象化し、  
色は、沿線に点在する歴史的な寺社仏閣の歴史を  
感じる色としました。



## 3. 変更時期

本年4月から順次塗装工事に取り掛かり、1編成目（700形）が6月から営業運転を開始するのを皮切りに、平成32年度までに全車両の塗装変更を完了する予定です。

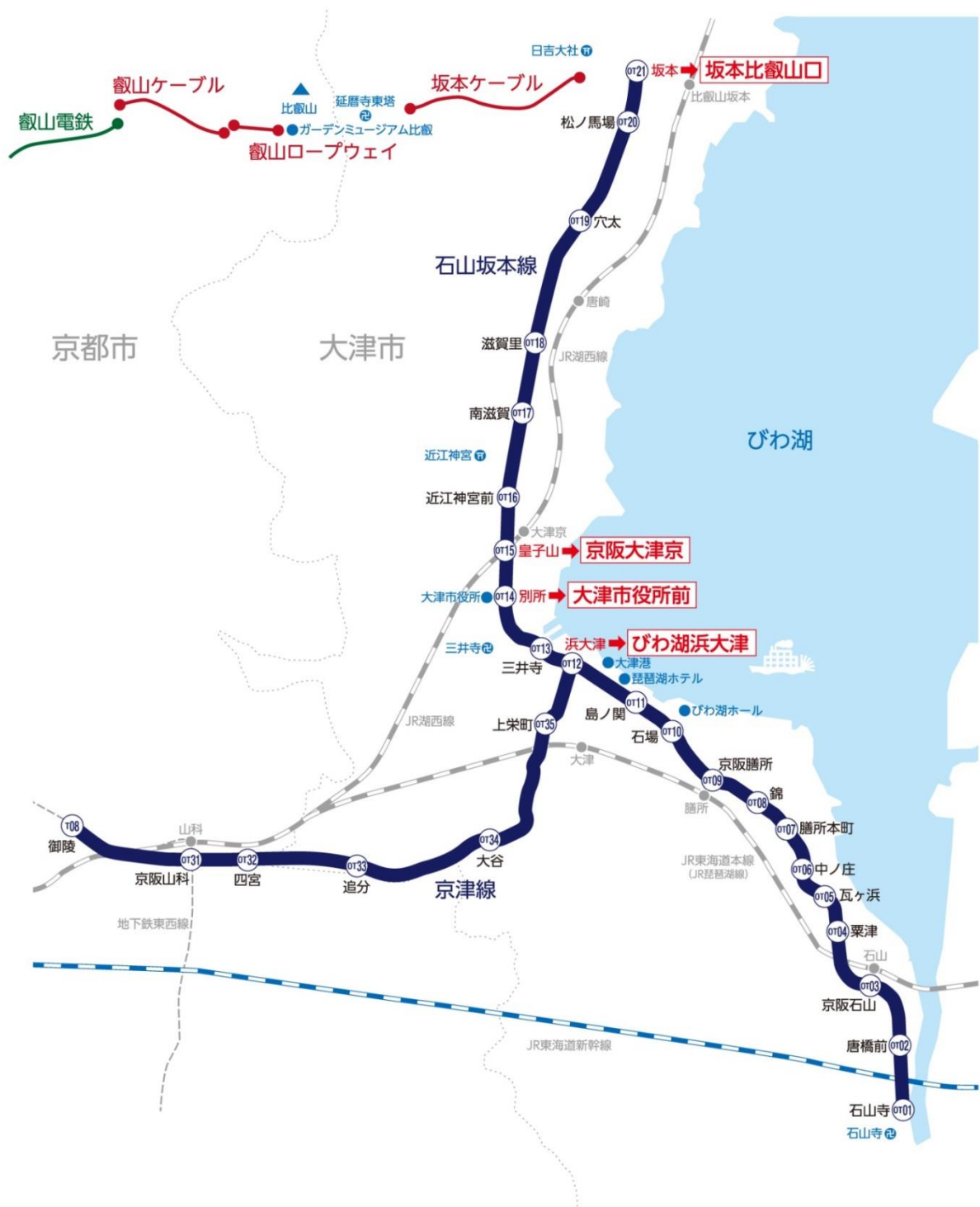
平成29年4月 塗装工事着手

6月 1編成目（700形）の塗装変更完了、営業運転開始  
路線識別マークの運用開始

平成33年3月 全車両の塗装変更完了

以上

(ご参考) 大津線路線図



※平成30年3月より、大津市内の4駅の駅名を変更します。